

愛知大学寮歌 (逍遙歌)

亀田敏生 作詞

山田昌弘 作曲



つきかげくたくる とう かいに しゅうしよくふかくー せいしんは



こてつ のあいちー しのばせて ねつじょうもゆるー おのこのら の



しきょうはかりてー こいした う たまのーふるさと さまよわん

6. きゅうてんのくもー あまがけり いざやーいざいざ こうひせん



きゅうてんのくも あまがけり いざや いざいざ こうひせん

1. 月影碎くる東海に
秋色深く星辰は
古哲の愛知偲ばせて
熱情燃ゆる男の児らの
詩興は翔りて恋ひ慕ふ
魂の故郷さまよはん

2. 硝煙の香消え失せて
欧亜の山河に春來れど
ローマアテネに比ぶべき
ロゴスの憧憬涸れ果てて
濁れる黄河の水を汲む
たたずむ遊子に愁ひ濃し

3. 享樂の風吹き荒び
怒濤にただよふああ故国
何れの日にか美はしき
理想の彼岸へ至らん
汝の救ひは汝なりと
願ひも悲壯ああ我等

4. 迷へる羊を導きて
愛知の白馬にまたがりて
真善美聖の旗かかげ
集ふ紅顔騎士五百
高師が原にいや高し
氣宇と意氣地を見よや友

5. 暗雲晴れて松籟は
東海の野に瓢々乎
そそぐ緑の月光は
一掬交はす盃に
珠玉を燦と沈めたり
仰げば帰郷る雁一群

6. 沈潜ここに六星霜
深淵騒ぎ蛟龍は
世界の文化一となし
宇宙の真を究尽し
九天の雲天翔けり
いざやいざいざ高飛せん
九天の雲天翔けり
いざやいざいざ高飛せん